5月25日のマリンエンジニアリング学会総会におきまして、伊藤恭裕新会長と交代致しました。大役を無事果たすことが出来たのは、会員の皆様、特に第44・45期の理事ならびに各種委員会委員の方々のご協力、ご支援の賜物と心よりお礼申し上げます。

懸案の公益法人化につきましては、会務委員会や事務局の特段のご尽力により達成することが出来ました。新しい定款は本号に掲載しており、会員の皆様のご確認を頂きたいと思っております。新会長のもとで新公益法人が始動できることは大変な喜びであり、引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

この2年間、私は、当学会の担う役目を「ブリッジ」というキーワードで表して参りました。その意味の一つは「船のブリッジ」、つまり周りが広く見渡せる場を提供すると言うこと、別の意味は「橋渡し」であり、産官学、研究者と設計者、メーカーとユーザー、機関と船側、更には熟練技術者と若手新人などの橋渡しの機会となることであります。もちろん、海事3学会や国際間の交流も重要課題です。

特筆すべき成果の一部として、2008年に長崎から始まった講演会の地方開催が、広島、新潟と、皆様のご尽力により極めて盛況であったこと、優れた講師陣によって技術者継続教育が進んでいること、また海事3学会での活動が実を結んで、この7月13日に第2回超省エネ船シンポジウムを開催できることなどが挙げられます。また各種委員会の活動が、前にも増して活発に行われていることは言うまでもありません。

当学会が力を入れている環境問題への取り組みについては、私の任期中に他学会へ紹介する機会があり、その際の講演タイトルを右に示します。特に、IMarEST（英国）を訪問し当学会の活動をアピールできたことは、当学会の一つの世界貢献と自負しております。

国際交流の成果としては、2009年10月のISME Busanにおける当学会の活躍も挙げられます。この勢いは、この10月に行われるISME Kobeにおいて、更に発揮されることは間違いありません。幸いにも、伊藤新会長はCIMAC（国際燃焼機関会議）の会長をも務められる超国際派であり、ISME Kobeから当学会のハイレベルな情報が世界に発信されるものと確信致します。

*原稿受付 平成23年5月27日

**九州大学

伊藤新会長のもとで、公益社団法人としての活動が早く軌道に乗り大きく前進されることを祈念して、第44・45・46期の会長退任の挨拶とさせていただきます。

14. Sept. 2010, IMarEST

Activities of JIME (Japan Institute of Marine Engineering) for global environmental protection

Koji Takasaki, President of JIME,
Prof., Labo. of Engine and Combustion,
Kyushu University, Japan

JSME・JIME 15. Oct. 2010, @Tokushima

船用大型ディーゼル機関デザインの環境対応技術（基礎的解説）

Environmental-friendly Marine Diesel (Fundamental Explanation)

Koji Takasaki, President of JIME,
Prof., Labo. of Engine and Combustion,
Kyushu University, Japan

19. May, 2011 @福岡

日本船舶海洋工学会・JASNAOE

船舶からの排ガス有害成分と二酸化炭素の削減に関する話題

日本マリンエンジニアリング学会・JIME
高崎 講二（九大・総理工）

50分で皆さんを船の環境問題のプロに・・・